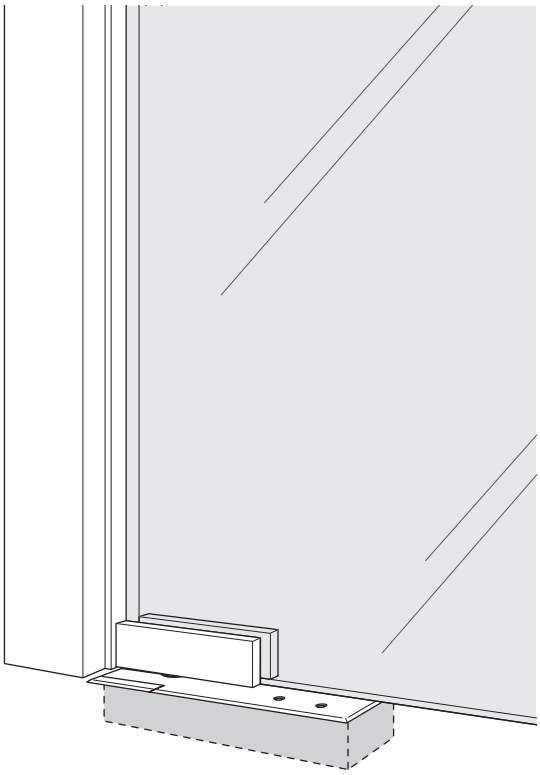
フロアヒンジ　MCHD1型　施工説明書

品番：MCHD100F3QT31
MCHD190FRQT31

このたびは、弊社製品をご採用いただき、ありがとうございます。施工前に本書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。施工後は、本書をいつでも取り出せるよう保管してください。

本製品について

- 閉止力、閉止速度調整機能付きのフロアヒンジです。
- 扉を 90° 開いた状態で保持する仕様も選択できます。
- 交換用ピボット軸を使用することで、扉下面とフロアヒンジ本体とのすき間を変えることができます。詳細は弊社カタログをご覧ください。



下部コーナー金具M100E10QT型との併用例

仕　様

質量	約 3kg
閉じモーメント	10 ～ 30N·m
閉止速度 調節範囲	(1) 175° ～ 15° (2) 15° ～ 0°
高さ調整	2 mm（上方向へ）

取付けできる扉

幅	1100 mm 以下
質量	120 kg 以下

正しく安全に取付けていただくために

図記号の意味

⚠ 警告 注意	⃠ 禁止	❗ 厳守

⚠警告　死亡または重傷を負うおそれがある内容を示します。

- ❗ 本製品の施工は、知識、経験のある方が本書に従い正しく行なってください。施工に不備があると、扉の脱落などにより思わぬけがをするおそれがあります。
- ❗ 扉の質量、扉の開閉時の衝撃に耐えうる強度の枠を製作してください。また、ねじは必ず指定したものを使用し確実に締めつけてください。取付強度が不足していると、扉が脱落してけがをするおそれがあります。
- ⃠ 本来の目的とは異なる使用方法や本書に示す仕様以外の扉には使用しないでください。
- ⃠ 本書で説明する部分以外の分解、および改造は行わないでください。

⚠注意　軽傷を負うことや、物的損害が発生するおそれがある内容を示しています。

- ❗ 本製品は建具を構成するための部品です。施工後に、最終製品としての機能および安全性をご確認ください。
- ❗ 指定寸法、仕様、各部の水平、垂直を必ず守ってください。枠、扉の反り、傾きやねじれは、故障や性能低下のおそれがあります。
- ❗ 部材を切断した場合、切断面のバリやかえりはきれいに取り除いてください。切りくずがレールの中に残らないように、きれいに取り除いてください。
- ❗ MCHD190FRQT31は、90°の保持状態から扉を閉じるときに音が発生することがありますが、故障ではありません。
- ❗ ねじの緩み等異常がないか、定期的に点検し、増し締めしてください。（お使い始めから1ヶ月後と6ヶ月後、その後は1年ごとが目安となります）。

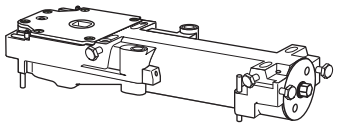
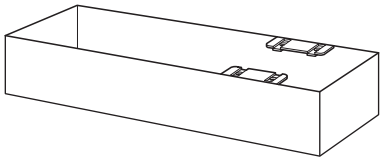
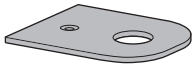
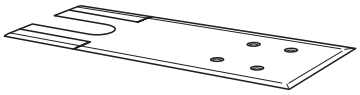
Ⅰ．部品の内訳

お願い

商品が届いたらすぐにケースを開き、内容物の数と状態の確認を行ってください。
万一、不足や不備があったら、作業せずに直ちに購入先までご連絡ください。

1 本製品

※ 丸番号は、5ページからの取付手順の説明と対応しています。

①フロアヒンジ本体  1ヶ	②セメントケース  1ヶ	③標準ピボット軸 1ヶ ④標準ピボット軸固定ねじ 1ヶ ⑤ダストキャップ 1ヶ
⑥カバー  1ヶ	⑦カバープレート  1ヶ	⑧カバー固定ねじ 十字穴付き皿小ねじM5×8　1本 ⑨カバープレート固定ねじ 十字穴付き皿小ねじM5×16　4本

2 現場の状況によって必要なもの

⑩ 交換用ピボット軸(別売)

(付属品　軸固定ねじ)

3 必要な工具など

- 下げ振り
- マイナスドライバー
- スパナ 呼び 10、13
- 六角レンチ　呼び5
  (ピボット軸を交換するときに使います。)

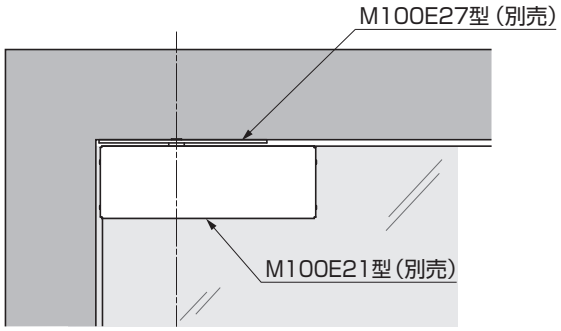
お願い

ねじ類の固定には、必ず手回しのドライバーをお使いください。
電動ドライバーを使用するとねじに過大なトルクがかかることがあり、組立作業に支障をきたすおそれがあります。

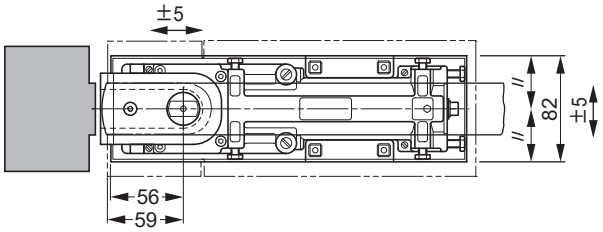
Ⅱ. 寸法図と調整ねじの名称

1 取付部断面

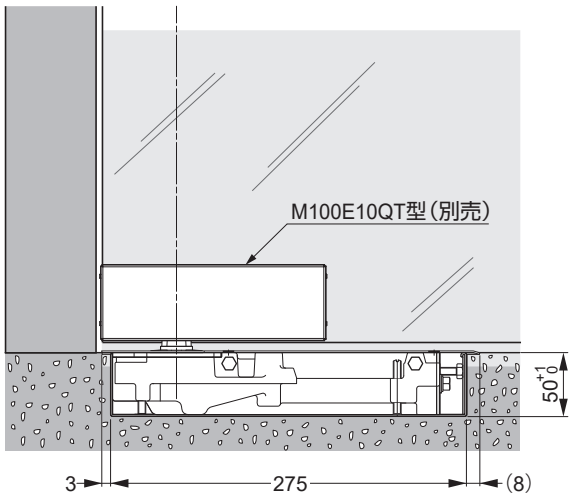
＜上コーナー金具 立面図＞
（上コーナー金具は本製品
には含まれていません。）



＜平面図＞



＜立面図＞



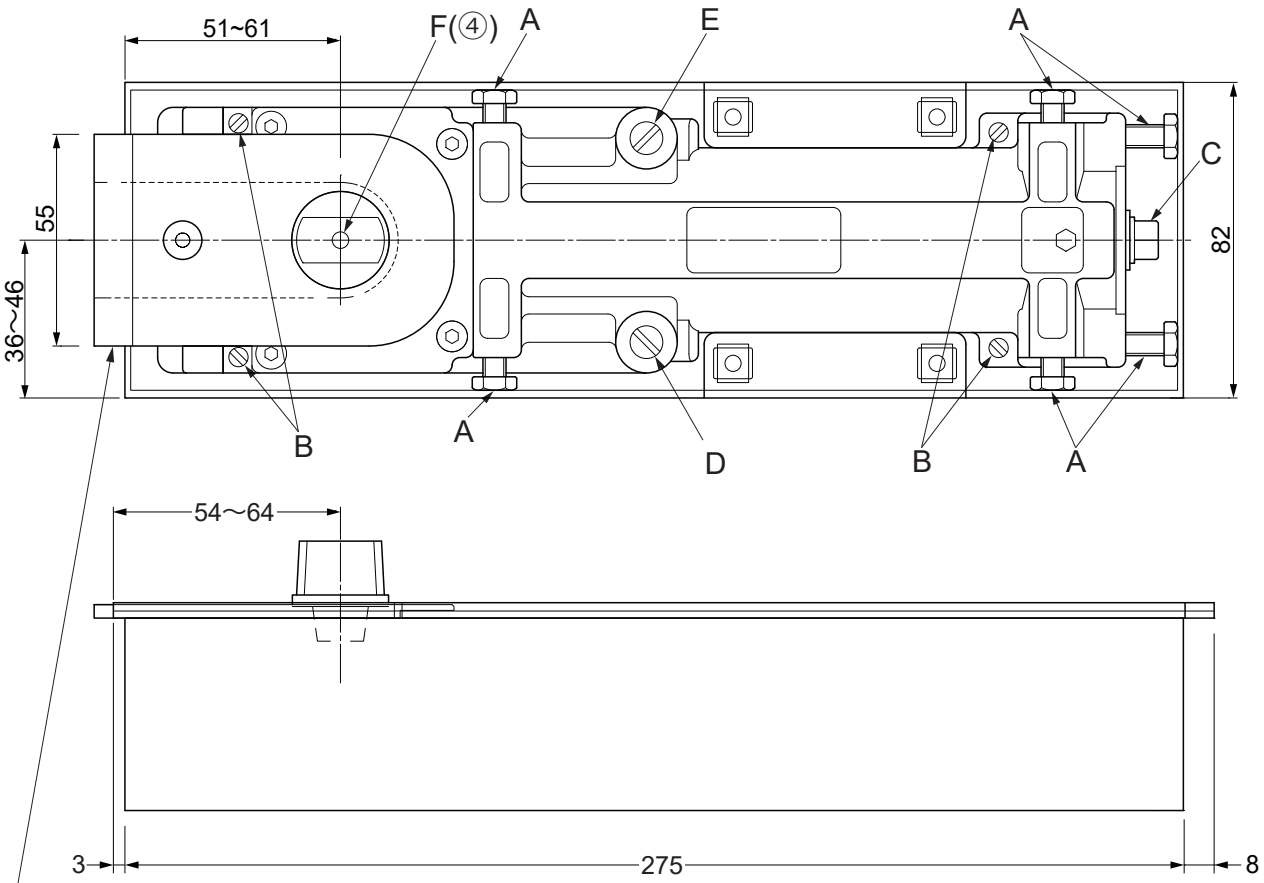
2 ピボット軸の位置調整

- 戸尻-戸先方向: 基準寸法から±2.5 mm動かすことができます。
- 前後方向: 基準寸法から±5 mm動かすことができます。
- 高さ方向: 基準寸法から 2 mm上に動かすことができます。

3 ねじの名称と機能

※ フロアヒンジ本体 には6種類のねじが配置されています。

1. ねじの名称と機能



軸芯位置調整後、カバー⑥の、カバープレート⑦からはみ出した部分は切除してください。

A. ポジション調整および固定用ねじ：
フロアヒンジ本体をセメントケースに固定するためのねじです。6 か所あります。

B. 高さ調整ねじ：
フロアヒンジ本体のセメントケースからの高さを調整するためのねじです。4 か所あります。

C. 開け力調整ねじ：
扉を開けるときの力を調整するためのねじです。

D. 閉止速度調整ねじ：
扉を閉じる速さを調整するためのねじです。
開いている角度、15 ～ 175 度までの範囲の速さを調整します。

E. 閉止速度調整ねじ：
扉をじる速さを調整するためのねじです。
開いている角度、0 ～ 15 度までの範囲の速さを調整します。

F(④). ピボット軸固定ねじ：
付属の、または現場に合った適当なピボット軸をフロアヒンジ本体に固定するためのねじです。

Ⅲ. 取付手順

※本書は、右勝手を基準として説明を進めます。左勝手の場合は、図が左右逆になりますのでご注意ください。

1 取付位置を決めます。

(1) セメントケース②からフロアヒンジ本体①を外してください。

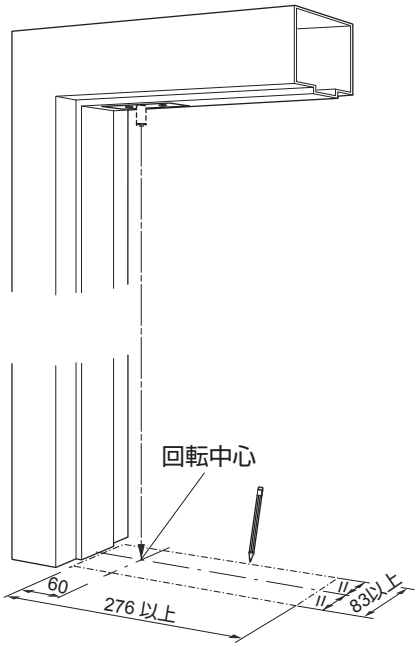
(2) 上コーナー金具を設計図面によって決められた位置に取付けてください。

(3) トップセンタから鉛直線を落とし、床上に印を付けてください。この点を回転中心と呼びます(図Ⅲ-1-1)。

(4) 回転中心を基準として、セメントケース②の平面寸法を床に描いてください。

(5) セメントケース②の平面図を描いた場所に、セメントケース②が完全に入る穴を掘ってください。

※ 無目しきい、テラゾーまたは石をお使いのときは、その厚み分を見込んでください。

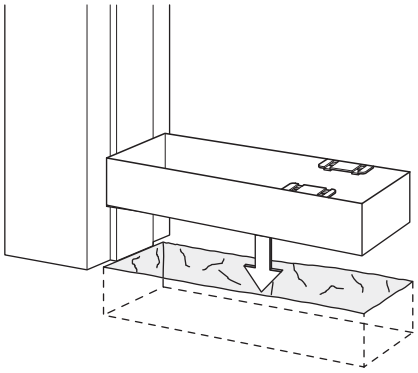


〔図Ⅲ-1-1〕

(6) セメントケース②を上で開けた穴に納めてください(図Ⅲ-1-2)。

<1> 穴の内側にモルタルを注ぎ、セメントケース②が動かないようにしてください。

<2> セメントケース②の上面が床上面または設計で示された位置に一致するようにしてください。

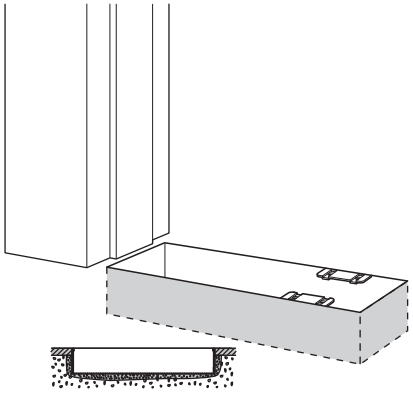


〔図Ⅲ-1-2〕

<3> セメントケース②は、水平に取付けてください(図Ⅲ-1-3)。

⚠

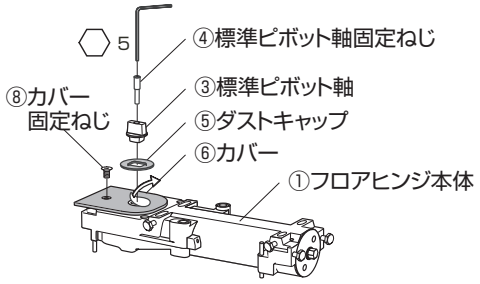
フロアヒンジ本体①に調整用のいくつかのねじがありますが、ここでの作業が不正確だと、後で調整しきれなくなることがありますので、正確に作業してください。



〔図Ⅲ-1-3〕

2 ピボット軸をフロアヒンジ本体に組み込みます。

(図Ⅲ-2-1)



〔図Ⅲ-2-1〕

(1) 標準ピボット軸③を、カバー⑥を仲介してフロアヒンジ本体①の穴に組み込んでください。
組み合わせる扉によってはピボット軸の向きが90°ずれる場合があります。確認して組み込んでください。

フロアヒンジ本体①を床下に埋め込むなどしてカバー⑥を使わない場合は、代わりにピボット軸に付属のダストキャップ⑤を仲介して組み込んでください。

(2) 標準ピボット軸固定ねじ④を標準ピボット軸③の中心の穴に差し込み、六角レンチ呼び5で締め(14N・m)、固定してください。

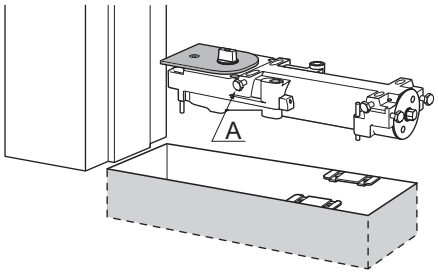
(3)カバー⑥を、カバー固定ねじ⑧で固定してください。

(4)ピボット軸を交換する時は、標準ピボット軸固定ねじ④を六角レンチ呼び5でゆるめます。
軸は固く入っていますので、ハンマーで軸の頭部を横から軽くたたくなどして、ゆるめてください。
交換用ピボット軸⑩に取り換える場合、交換用ピボット軸に付属の軸固定ねじで固定してください。

---

3 フロアヒンジ本体をセメントケースに組み込みます。

(1) フロアヒンジ本体①をセメントケース②に組み込んでください(図Ⅲ-3-1)。



〔図Ⅲ-3-1〕

(2) ポジション調整および固定用ねじ A の頭をセメントケース内壁に当たるまでゆるめてください。

(3) フロアヒンジ本体の平面上の位置を決めてください。

<1> もう一度、トップセンタから鉛直線を下ろしてください。

<2> 鉛直線がフロアヒンジ本体①の標準ピボット軸③の中心と一致する場所にフロアヒンジ本体①を動かして**ポジション調整および固定用ねじA** をゆるめて、ねじ頭をセメントケース内壁へ突っ張らせてください。
この後高さを調整するので、完全には突っ張らせないでください。

(4) フロアヒンジ本体①の高さを決めてください。
フロアヒンジ本体①は、セメントケース②の底にぴったりと付けた位置から 2 mm上げることができます。

<1> フロアヒンジ本体①の表面と床上面との高さの差を確認してください。

<2> 高さ調整ねじ B(P.4参照) をマイナスドライバーで回して、高さを調整してください。

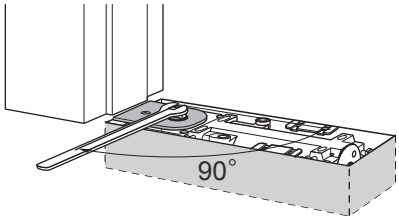
<3> ポジション調整および固定用ねじ A を、セメントケースに接するまで(締付トルク:1N・m) で突っ張らせてください。

<4> 調整範囲が 2 mmを超えてしまうときは、別売りの交換用ピボット軸⑩を使って高さを調整し直してください。

4 フロアヒンジ本体に扉を組み込みます。

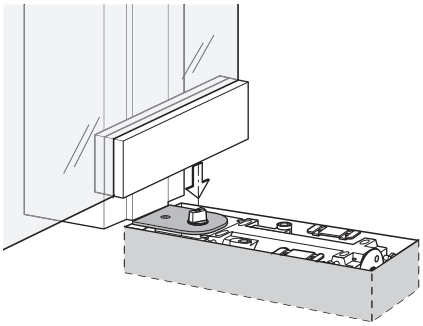
(1) 標準ピボット軸③をスパナなどではさんで約 90 度回して、そこで止めてください(図Ⅲ-4-1)。

※ MCHD190は、90度の位置でピボット軸が止まりますが、MCHD100は、この位置では止まりません。



〔図Ⅲ-3-2〕

(2) 扉の回転中心を標準ピボット軸③にはめてください(図Ⅲ-4-2)。



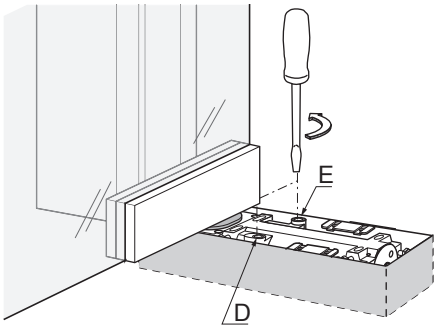
〔図Ⅲ-4-2〕

5 扉の閉止速度を決めます。

(1) 扉を開け閉めして、閉止速度調整ねじ D および E をマイナスドライバーで回して、閉止速度を調整してください(図Ⅲ-5-1)。

※ ねじの機能は 4 ページの「 3 1.ねじの名称と機能」をご覧ください。

※ 一度いっぱいにねじを締めてから、少しずつゆるめると作業がしやすくなります(回すのは締め切りから2回転までにしてください）。
必ず本体よりねじ頭が出ない範囲で調整してください。
緩めすぎると、オイル漏れの原因になります。

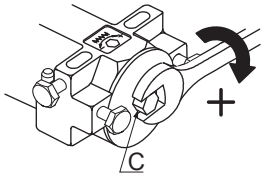


〔図Ⅲ-5-1〕

6 開けるときの力を決めます。

(1) 開け力調整ねじ C をスパナ 呼び 10 で回して、扉を開ける力を決めてください(図Ⅲ-6-1)。

<1> 図の矢印の向き(時計回り)に回すと、扉を開けるための力は強くなります。

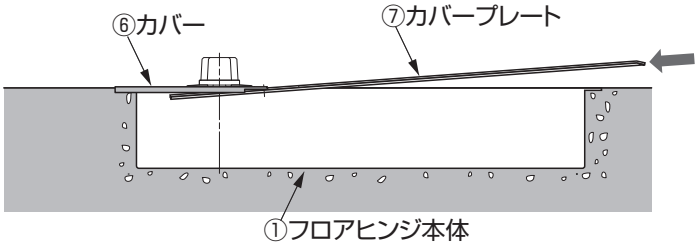


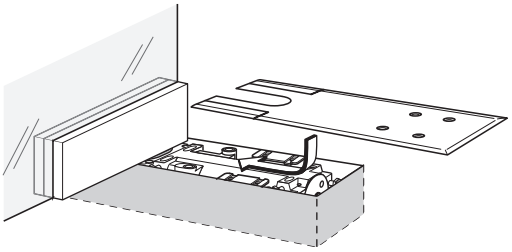
〔図Ⅲ-6-1〕

⚠
MCHD190FRQT31 は、90° の保持状態から扉を閉じるときに「カキーン」という音が発生することがありますが、故障ではありません。

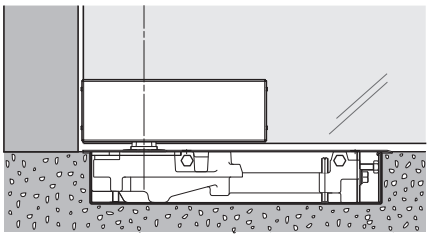
7 カバープレートを取付けます。

(1) カバープレート⑦を扉と床のすき間から差し入れます(図Ⅲ-7-1、図Ⅲ-7-2)。
軸周辺は、本体①とカバー⑤の間に差し込むように取り付けます。





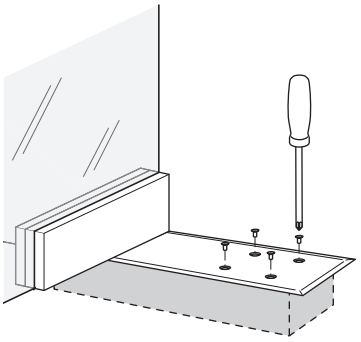
〔図Ⅲ-7-1〕



〔図Ⅲ-7-2〕

(2) カバープレート⑦をカバープレート固定ねじ⑨で止めてください(図Ⅲ-7-3)。

(3) カバー⑥の、カバプレート⑦の縁からはみ出た部分は、周辺と干渉する場合は切り落としてください。



〔図Ⅲ-7-3〕

本製品に関するご質問・ご相談は、
ご購入先の販売店 へのお問い合わせを推奨しております。
※弊社は代理店販売をメインとしておりますので、販売代理店へ先ずお問い合わせいただく事が、スムーズな対応にもなります。

SUGATSUNE スガツネ工業
LAMP 印の機能&デザイン金物メーカー
TEL:03-3864-1122(代) 平日9:00～17:30
E-mail : support@sugatsune.co.jp

2025.03 1159-5j